

指揮：延原 武春 (NOBUHARA Takeharu)

18世紀音楽を専門とする指揮者・オーボエ奏者。1963年にテレマン室内オーケストラを創設。彼らを率いて「文化庁芸術祭・優秀賞」(関西初)・「第17回サントリー音楽賞」(現在もテレマンと東京交響楽団以外のプロオーケストラは受賞していない)等を受賞。1982年、初演当時の編成とベートーヴェンの指定したテンポで「第九」を演奏(世界初)。2008年にはベートーヴェンの交響曲全曲を、作曲家指定のテンポとクラシカル楽器を使用して指揮。この公演が引き金となってドイツ連邦共和国より「功労勲章功労十字小綬章」が贈られた。



ヴァイオリン：浅井 咲乃 (ASAI Sakino)

テレマン室内オーケストラ、ソロコンサートマスター。2008年にヴァイオリン・ソリストとして登場し、ヴィヴァルディの「四季」全曲を見事に好演。2010年の第195回定期演奏会における同曲の公演も「いま、もっとも聞きたい『四季』と言ってよい」(モーストリークラシック2011年2月号)という高い評価を得ている。2012年にはナミレコードよりヴィヴァルディ「四季」全曲、「ムガール大帝」などを収録した1STアルバムを、2015年には2ndアルバム『『よろこび』と『かなしみ』』をリリース。平成30年度咲くやこの花賞(音楽部門)を受賞。



チェンバロ：高田泰治 (TAKATA Taiji)

2002年神戸新聞松方ホールにてテレマン室内オーケストラとともにピアノ、フォルテピアノ、チェンバロのそれぞれの協奏曲を一夜で演奏するという公演にてデビュー。J.S. バッハの作品をテーマにチェンバロのリサイタルシリーズの演奏内容が高く評価され、2011年「バッハ・アルヒーフ」(ライブツィヒ)定期演奏会に招聘された。C. ショルンスハイム、A. シュタイアー、O. ボーモンらに師事。平成23年度坂井時忠音楽賞受賞。平成28年度咲くやこの花賞音楽部門受賞。2018年度音楽クリティッククラブ賞奨励賞受賞。令和2年度神戸市文化奨励賞受賞。



トランペット：福中 明 (FUKUNAKA Akira)

テレマン室内オーケストラ首席トランペット奏者。大阪芸術大学芸術学部演奏学科管弦打コース卒業。トランペットを池田俊、松崎裕一の両氏に師事。室内楽を延原武春、森下治郎氏に師事。2008年、クラシカル楽器による延原武春指揮「ベートーヴェン交響曲全曲」連続公演、合計6枚のCDレコーディングに参加。現在、四條畷学園中学校吹奏楽部、指揮者。ブラウアー音楽アカデミー講師。奈良フィルハーモニー管弦楽団首席トランペット奏者。出雲芸術アカデミー音楽院客員准教授。神戸女学院大学音楽学部非常勤講師。



テレマン室内オーケストラ

1963年に指揮者・延原武春が結成。延原の指揮のもとテレマン作曲「マタイ受難曲」、「ヨハネ受難曲」等数々の作品を本邦初演。その活動は高く評価され「サントリー音楽賞」「音楽クリティッククラブ賞」、「大阪府民劇場賞」、等を受賞している。2003年、ドイツの「バッハ・フェスティバル」でC.P.E. バッハ「チェンバロ協奏曲 Wq 1」を世界初演した。2007年にはクラシカル楽器によるF.J. ハイドンのオラトリオ「四季」を好演、「大阪文化祭賞グランプリ」を受賞。2012年よりドイツ人バロック・ヴァイオリン奏者ウッラ・ブンディース氏を首席客演コンサートマスターとして迎えた。

新型コロナウイルス感染拡大防止のためのご協力をお願いいたします。

- ・発熱や体調のすぐれない方は、ご来場をお控えください。・ご来場時はマスクの着用をお願いいたします。
- ・手指の消毒や手洗いをお願いいたします。・チケット購入時またはご来場時、「お名前・ご連絡先」等をお伺いします。この情報は必要に応じて保健所等の公的機関へ提供する場合がございますので、ご了承願います。

※兵庫県及び明石市立市民会館自主事業開催ガイドラインに沿って運営しています。